# 令和8年度岐阜県職業能力開発審議会　会議録

| | |
|---|---|
| **日時** | 令和８年９月１６日（水）１４：００～１５：２５ |
| **場所** | 岐阜県庁　３階　３０３会議室 |
| **出席委員** | ＜委員＞　６名<br>竹内治彦委員、神戸吉成委員、堀田大策委員、栗本理花委員、<br>山口禎一郎委員、古田隆委員 |
| **事務局** | 商工労働部　次長　山田　浩司<br>労働雇用課　課長　森島　恵理子<br>国際たくみアカデミー　　校長　森　保<br>木工芸術スクール　　校長　宮前　良一<br>障がい者職業能力開発校　校長　牧村　義和<br>労働雇用課　障がい者就労推進監　池戸　寛朗<br>労働雇用課　課長補佐兼職業能力開発係長　荒井　正人<br>労働雇用課　職業能力開発係主査　栗山　徹子 |

**１ 開会**

**２ 挨拶**

商工労働部次長　山田　浩司

**３ 審議会の成立**

委員総数（９名）の過半数を超える６名が出席し、岐阜県職業能力開発審議会条例第５条第２項の規定に基づき審議会の会議が成立したことを確認した。

**４ 会議録署名者の氏名**

竹内会長が神戸委員と古田委員を指名した。

**５ 議事**

配布資料「職業能力開発施策の取組状況」、「本県における現状と課題について」に沿って、事務局より説明を行った。

**６ 閉会**

【議事要旨】

| 発 言 者 | 発　　言 |
|---|---|
| 委員 | 就職後の定着率はどのように調査しているのか。 |
| 事務局 | 直接企業に照会している。 |
| 委員 | 資料中のリクルートワークス研究所の労働供給不足率について、県レベルでの精度は低いと考える。<br>職業能力開発施策の事業の財源には国のお金も入っているのか。 |
| 事務局 | 離職者向けの委託訓練は、国から県へ委託されたものであり、全額国の負担。<br>それ以外は、おおむね半額は国補助金を財源としている。<br>次世代の担い手育成に関する事業は県独自の取組である。 |
| 委員 | 訓練だけでなく、能力を高めた労働者がその能力に見合った賃金や処遇を得られる仕組みが重要と考える。<br>県内企業の仕事の内容や魅力を伝えるだけではなく、岐阜県で働けば生活が安定して、将来設計もできることを発信するといいと思う。 |
| 委員 | 今年から障がい者の方の法定雇用率が上がったことにより、雇用に苦慮していると聞いている。製造業の現場は人手不足ではあるが、現場となると安全や品質を担保するために、やっていただく仕事が限られてくる。障がい者職業能力開発校で、もっと幅を広げた訓練をしていただけるといいと思う。<br>もう１つは、人手不足の中、ＡＩやＤＸ関係の人材育成が今後重要になってくると考えている。 |
| 事務局 | 障がい者職業能力開発校では、基本的には事務補助を養成している。その中で社会適応ができるような訓練を行っている。<br>製造業に実習に行った方が、製造業に就職することもある。<br>今後も、訓練と現場実習を組み合わせて、製造業の要請にも応えていきたい。<br>ＡＩやＤＸについては、職業訓練指導員が研修を受けている段階で、今後カリキュラムへの反映を検討していく。 |
| 委員 | 障がい者職業能力開発校の訓練生は新卒者だけではないのか。 |

| | |
|---|---|
| **事務局** | 新卒だけではなく、離職者も多い。また、単位制や通信制の高校からの新卒者も多いため、ＳＳＴの社会適応訓練を重点的に行っている。 |
| **委員** | 年齢層はどれくらいか。 |
| **事務局** | 今年度の割合では 10 代が大体２割くらいで、一番多い。20 代から 40 代までが中心になっている。 |
| **事務局** | 障がい者職業能力開発校での訓練以外にも、障がい者を対象とした委託訓練もある。<br>また、県独自の取組みとして、障がい者の方が就職する際に、一度働いてみて、その職場が合うかどうか確認する「チャレンジトレーニング」という事業も実施している。 |
| **事務局** | 国際たくみアカデミーでは、在職者訓練で事務系のＡＩについての訓練を行っている。<br>施設内訓練では、ロボット教育に力を入れている。岐阜県の中小企業では、ロボットを導入できる人材がいないという声を聞くため、導入・メンテナンス・稼働ができる人材の教育に力を入れていきたい。 |
| **委員** | 最近ＡＩなどに人が流れてしまって、県内の伝統的な産業が忘れ去られ、職人の技術伝承が困難になることを危惧している。<br>せっかく国の資格を取った職人の技能が縮小していく状況を改善する必要がある。 |
| **事務局** | １ヶ月ほど前の新聞で、アメリカではＡＩが進歩して事務系の職はなくなり、手に職を持っている人が活躍できる状況であるという「ブルーカラービリオネア」に関する記事が掲載されていた。日本でも 10 年くらいしたら同じような状況になるかもしれない。<br>職業能力開発校では実際に職人の方に指導していただいている。こういう指導はＡＩにはできないと思うので、価値が上がっていい給料が出て魅力が増せば、職人になる若者が増えるのではないかと期待している。 |
| **委員** | 従来のように障がい者の方、高齢者の方、女性の方の能力を上げるだけでは、人材不足の補填に間に合わなくなってきていると思う。<br>例えば、経理、総務、労務管理など、どの企業でも共通の仕 |

| | |
|---|---|
| | 事を複数社で共有すれば、余った人材をそのメーカーにしかできない業務に振り分けることができる。県を挙げてやれば、岐阜県では少ない人数で企業として成り立つことが強みになって、魅力も増すのではないか。<br>　もう一つ、岐阜県は確かに他に比べると賃金が低いが、生活をしていく中での支出は圧倒的に低い。家を借りるのも首都圏や名古屋と比べると安いし、空き家もある。食費も安い。その辺りをちゃんとデータに基づいて試算してＰＲしていけば、岐阜県での労働力確保につながるはずだが、うまくＰＲできていないと感じる。<br>　職業能力開発だけでなく、どの人材をどこに振り分けるのか、県全体のビジョンを明確にする必要がある。 |
| **事務局** | 　情報発信は重要であり、届いてほしい情報をいかに届いてほしい人に伝えるかという視点で取り組んでいきたい。 |
| **委員** | 　私はものづくりマイスターの資格を持っているため、小学校に訪問して、技能や仕事を紹介させてもらっている。子供たちがキラキラしており、大変いい事業だと思う。<br>　大工の定着率は落ちてきている。５年経つと、３割しか残らない。１５年くらい前の半分である。しかし、続ける子は立派な職人になる。教え方は昔と変えているが、これからも育成して定着させるということを考えていかなければいけないと感じた。 |
| **事務局** | 　木工芸術スクールでは、最初に入った企業を辞めても、同職の会社に転職していることが多い。卒業した家具職人は、みんなやりたいことを楽しくやっている。 |
| **委員** | 　岐阜県の給与が低いという話があったが、県別の順位だと岐阜県は真ん中くらいにくると思うが。 |
| **事務局** | 　全国と比較というよりは、近県との比較という意味である。 |
| **委員** | 　本審議会は職業能力開発促進法に基づくものということで、基本的には雇用対策、失業対策がベースとなっているが、法律には、そういう訓練を通じて経済及び社会の発展に寄与するというようなことが書いてあるので、産業界や経済課からの要請に基づく職業能力開発という視点も持ってよいのではないか。<br>　製造業では、求職者の方を訓練していく部分と同時に、工場の側でも受け入れる環境を作っていく必要がある。<br>　ＡＩやＤＸも大事だとは思うが、職人さんも大切。せっかく |

| | |
|---|---|
| | 各団体の要職の皆さんに出席いただいているので、職業能力開発校の数字のことのみでなく、もう少し大きな視点で審議できるとよい。 |
| **事務局** | 県としては、従業員が働きやすい環境を作るために「働いてもらい方改革」を推進している。先進的な企業５０社を紹介するなど、県下一円に広げていくために取り組んでいるところであり、今後も、企業のニーズを踏まえながら職業能力開発施策に取り組んでいきたいと考えている。 |